



子育てにはいくらかかる？



「こどもの夢を叶えるには、いくら必要でどうやって貯めればいいのか」「投資ってみんなやっているのかな？」
「物価の上昇で家計が…」などなど、漠然とした不安でなんだかモヤモヤ…。

お金の不安を解消する大事な“順番” 「とりあえず投資をはじめたい」は危険！

- 1. ライフプラン** **目的** いつ、どんなときに、お金がかかるイベントがやってくるのか
例) 車の買い替え、マイホーム購入、家族旅行、こどもの進学…など
- 2. マネープラン** **手段** ライフプランを実現するためのお金の計画
例) 今の収入と今後の支出をチェック(住宅費、教育費、生活費、保険、老後の資金)
お金に関する「見直し」ができれば、生活に合った資産形成「金融商品」を選びましょう
例) 預貯金、投資信託、株式投資、生命保険…など
- 3. 金融商品の選択**

教育費の中で特にお金がかかるのは大学の学費

小笠原さんによると…

※金額は目安です



【国公立】

4年間+入学金→約300万円(下宿…約700万円)

【私立文系】

4年間+入学金→約500万円(下宿…約900万円)

【私立理系】

4年間+入学金→約800万円(下宿…約1,200万円)

【私立医歯系】

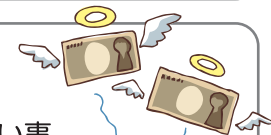
6年間+入学金→約1,200万円(下宿…約1,800万円)

参考:「日本政策金融公庫HP 教育費に関する調査結果(2021年12月20日発表)」
https://www.jfc.go.jp/n/findings/kyoiku_kekka_m_index.html

幼児教育・保育～高等学校までは国の助成制度を利用するほか、現在の収入や児童手当で賄っているご家庭が多いようです。
(自治体によって支給条件や支給額が異なる場合があります)

ほかにも費用がかかる！

修学旅行費、制服代、
教材費、部活の費用、習い事、
受験費用、運転免許取得費用…など



※公立・私立は、大学によって学費の総額が違ってきます。
同じ大学でも在籍する学部によって金額の差があります。

**「全額を準備しなければ」ではなく、「どこまで支援できるか」
ライフプランを作成することで、いくら貯められるかを知ることができます！**

お金の話ができる環境

奨学金を利用する、アルバイトで補う、就職後に大学資金を貯めてから進学する…など、具体的な話を親子で話し合える関係を築くことが大切です。

「おこづかい教育」や「金銭教育」を通して、お金について親子で真剣に考えるきっかけになってほしいと思います。(談)

教育資金の準備をしていますか？

- 預貯金(3人) 貯蓄型の保険(4人)
投資信託(3人) 児童手当を貯める(5人)
- 本人の進路希望をできるだけ叶えてあげたい
 - 先の不安を解消するため
 - 貯蓄はしているが、いざ必要になったときにどのくらい必要なかわからず不安
(読者モニターアンケートより)

お金を貯める方法はさまざま

家庭状況に
合ったプランを！

普通預金・貯蓄預金

普通の生活に必要なお金
緊急時のお金
(出し入れ自由)



積立式定期預金

毎月決まった日に
積立てができる



生命保険

万一のときの
保障を兼ねた
貯蓄型の保険

投資信託・株式投資

お金を増やすことを重視
(減るリスクもある)
節税しながら運用
できる制度もあり



児童手当

金額はこどもの
年齢や生まれた順番
によって変わる

児童手当の使い方どうしてる？

- こどもの教育費(6人)
- こどもの生活費(1人)
- 家庭の生活費(2人)
- こどものための貯蓄(6人)
(読者モニターアンケートより)

こどもが生まれたときから児童手当を
すべて貯めた場合、大学進学費用の大きな
助けになります。

どう使うかは各家庭の自由。「こども
の健やかな成長」のために役立てて
ほしいものです。

※情報提供を目的としており、金融商品の購入を推奨するものではありません。

お金の勉強会 編集委員の感想

- お金についての話はタブーだと思っていました。こどもの自主性を育てる「ツール」となる良さがあることがわかりました。(小4ママ)
- とても幅広い「お金の話」！まずはお金の価値観を知るためのおこづかい教育を実践していきたいと思います。(小2ママ)
- おこづかいの使い方について口出しをせず、ぐっと我慢。自分で決めてもらいます。「ニーズ」と「ウォンツ」は大人にも当てはまると思いました。(小2、3歳ママ)
- ライフプランを見直す！今までがアバウトすぎたので、目標を決めて、貯めたお金を計画的に使えるようにしたいです。(小4、4歳ママ)

